

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	住関連専門店 (従業員)	単価の動き	・進学や就職などの新生活需要が予想よりも多く、また客単価も高いため、売上も順調に推移している。
	○	商店街（代表者）	単価の動き	・新年度を迎え、チラシ、伝票、印鑑、ゴム印など特注の製作物が増加傾向である。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・4月に入り気候が良いため、人出が増えている。加えて、インバウンドの動向も活発になっており、売上が徐々に増加している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・人の動きが良くなり、売上は増加している。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街への来客数が増加し、活気が徐々に戻りつつある。旅行やイベント、食事会、コロナ禍で一時的に停止していた習い事等の行動も活発になっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・全体的に値上がり傾向にあるため買物客の消費意欲が減退しており、営業に影響が出ている。
	○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・新社会人とみられる人が多く来店するようになり、徐々に売上が伸びている。この状態が今後も続くようであれば、更に来客数や客単価は伸び、売上全体が増加すると予想される。
	○	衣料品専門店 (店員)	来客数の動き	・前月は寒さにより、紹介や予約以外の客による春物の買上人数が前年比75%と少なかったが、今月は前年比130%と増加している。
	○	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・これまで続いた大手自動車メーカーの不正問題が一段落し、販売可能な車種数が回復傾向にある。
	○	乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・メーカーの新車生産が順調に推移している。販売店への配給も徐々に増え、売上増加に寄与している。今後もこの状況が続くと予想される。
	○	その他専門店 [コーヒー豆] (経営者)	お客様の様子	・客の購入量を前月と比較すると、若干増加している。来客数も徐々に増加傾向にあるため売上が良くなっており、今後も順調な売上推移を予想している。
	○	高級レストラン (経営者)	販売量の動き	・客が徐々に多くなり会合も増えているが、利益に結び付かないため景気が良いわけではない。
	○	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・販売室数は前年、前々年と比較して増加傾向である。特に欧州等の海外からの人流が多くなり、宿泊が増加している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・当地では大型クルーズ船の寄港など国内外の観光客は堅調で、スポーツやコンサートなど大型イベントの開催も多くなり、街全体のにぎわいは充実している。しかし、大型連休を前にして市民生活の節約志向は続いている。
	○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の新規開局があり、短期的ではあるが販売数が増加している。
	○	観光名所（職員）	来客数の動き	・地域産品の販売店や居酒屋の来客傾向としては、指標としている市外からの買物客が訪れており、売上が良くなっている。
	○	美容室（店長）	来客数の動き	・新学期を迎え外出の機会も増えたため、県外から親戚が帰省するなど、来客数の増加につながっている。
	○	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・イベントや展示場の来場者数が増加傾向にあり、今後も客の動きは続く。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・当商店街で2度の火災があり、まだ回復していない状態である。火災によるダメージは大きく、客足が遠のいているのが現状である。
□	一般小売店 [精肉] (店員)	販売量の動き	・引き続き、飲食店向けの高単価商品の販売量が好調である。	
□	一般小売店 [鮮魚] (店員)	お客様の様子	・漁獲量が若干増えているものの、売行きが悪化しており経営が非常に厳しい。ゴールデンウィークが近づいているが、商品の動きが悪くなっている。仲卸としては、小売店や飲食店の活気がなければ商売にならないため、少しでも好転することを期待している。	
□	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・インバウンドの来店や購入が好調に推移しているものの、国内客の売上は余り伸びていない。	

<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・店舗ごとの品ぞろえの差は出てきているが、総じて3か月前と同水準を維持している。現時点では客の消費が増加しており、冷え込んでいる動きは見られない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・株価の最高値や賃上げなどの好材料が地方にまで波及していない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・食品催事や飲食等の売上は伸びているが、衣料品全般は悪天候の影響もあり売上が伸びていない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（営業担当）	単価の動き	・ゴールデンウィークやクルーズ船寄港増が要因で街全体の人出が増え店頭のにぎわいが続いている状況である。店頭では、友の会や新入学の制服納品、全店催事、恒例の物産催事開催があり、悪天候の影響はあったものの来客数は若干増えている。一方、購入客数や商品単価は伸び悩んでいる。学生服や化粧品、子供用品など自家需要商品については好調を維持しているが、商品価格の上昇で商品単価、客単価共に上がっており、慎重な買物傾向が続いている。
<input type="checkbox"/>	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・このところ、日用品や光熱費の値上がりにより物価上昇を実感している客が多いからか、今後の買物方法や支出の見直しを考えている客が増えているようだ。
<input type="checkbox"/>	百貨店（経営企画担当）	来客数の動き	・来客数は前年を上回っているものの、衣料品関係の動き出しが遅かったことなども影響し、売上としては前年をやや下回る推移となっている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	販売量の動き	・物価が上昇しているが購買推移に変化がなく、買上点数の減少を単価の伸びでカバーできるほど売上が伸長していない。そのため、売上が前年割れになり、深刻な状態である。4月からの様々な値上げも消費者の節約マインドを加速させている。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・原価高を起因とした商品値上げによる単価上昇で、買上点数の減少をカバーしながら売上は伸長してきた。一方、最近では来店者数が特売日に集中しており、特売日以外の集客が厳しくなっている。3～4月は雨が多かったが、この影響だけではないと考えている。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数に大きな変化はなく、客の購買行動も変わらない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・天候や気温にも影響されていると考えられるが、昼のピーク時の客が若干減少している。店の前の道路では車の往来が少なく、来客数が伸び悩んでいる。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客の動きは今一つといった状況である。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・4月は新年度となるため、1月と比較して思い切った需要があったが、景気とは関係がない需要であるため状況としては変わりが無い。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・新型車の発表で来場者数は多いが、登録や納車の販売は若干落ち着いている。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は当地域でイベントがあったため、売上は前年並みと順調である。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（統括者）	来客数の動き	・国内からの来客数が新型コロナウイルス感染症発生以前の水準まで戻っていない。
<input type="checkbox"/>	その他飲食の動向を把握できる者 [酒卸売]（経理）	販売量の動き	・個人所得で考えると、収入よりも物価高騰による支出増加が大きく、景況感は良くなっていない。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・団体やグループが増えており、新型コロナウイルス感染症発生前の状況に戻ってきている。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	お客様の様子	・県外からのゴルフ客が徐々に増加しているものの、ゴールデンウィークは家族で楽しむためにレンタカー需要が増加するのではないかと予想しているため、状況は変わらない。

□	通信会社（業務担当）	単価の動き	・インターネット回線業務では代理店手数料が年々下がっている。更に減額になる情報が流れているため、今後の景況判断が難しくなっている。
□	ゴルフ場（従業員）	お客様の様子	・海外客の来場者は減少したものの、地元客が順調に推移している。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・化粧品業界では、2～3か月前と比較すると横ばいである。例年春先になると忙しくなるが、天候不順も影響し、客の衣替えや化粧品など季節の変わり目がずれてきており、客の動きは緩やかである。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・会場貸し等の引き合いは、以前と比べ多くなっているが、身の回りの景気が良くなるほどの結果は出ていない。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症へ移行されたことから医療機関が新型コロナウイルス病床確保から入院患者確保へシフトしており、介護度重度者の医療機関からの紹介による利用者確保が困難となっている。
□	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築業界では材料や製品の価格上昇が続いているが、人件費の価格転嫁は進んでおらず、景気の良さは感じない。しかし、観光客は明らかに増加しており、その関連業種は良くなっていると考えられ、景気は両極に分かれると予想される。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・物価の上昇と悪天候の影響で来客数が減少している。買上単価も下がっている。
▲	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・気温が上がったことで大根や白菜、キャベツのほとんどが地場から県内産になっており、また、鍋物需要からサラダ需要に切り替わっている。加えて、単価の上昇で野菜の需要が下がっており、3～5月まで厳しい状況である。
▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・来客数は前年同月と比べ変わらないが、購入単価が下落している。高齢者が多いため、年金等の収入が厳しくなったと考えられ、売上も若干減少している。
▲	百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・3か月前と比較すると円安の影響からインバウンド需要が伸び、国内消費者の消費動向が徐々に鈍くなっている。
▲	スーパー（店長）	お客様の様子	・客の来店頻度や1人当たりの買上点数の減少が続いている。1品単価は上昇し続けているが、そのことが消費を抑制させる要因となっている。消費が伸びておらず、景気後退の状況にあると懸念している。
▲	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・売上は前年を超えているが、値上げ部分を差し引くと前年割れになる。4月に入り来客数が伸び悩み、買上点数が減少傾向にあるのがその大きな要因である。
▲	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・長引く値上げの影響で1品単価が上がっており、買上点数が減少しても客単価を維持してきた。しかし、徐々に客単価も下がっており、支出を抑えたり安い店を選んでいると予想される。
▲	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・客単価は維持しているものの、来客数が前年を下回っている。天候の悪い日が多く、気温も低いことが要因だと考えられる。若干、買上点数が減少しており、生活習慣の変化により考え方に変化が現れていることも考えられる。
▲	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少がコロナ禍以上に悪化している。物価上昇による買い控えが顕著になり、コンビニ主力の米飯類以外の関連購入や生活必需品の購入が少なくなっている。来客数や客単価が上昇する夜帯も減少傾向が続いている。
▲	家電量販店（店長）	お客様の様子	・商品価格が何度となく改定され、新製品の価格も旧製品の発売時価格より上昇していることから購入に踏み切れない客が多くなっており、物価高であるが客単価は下落傾向である。
▲	家電量販店（店員）	来客数の動き	・景気が上向きになる好材料がないことや毎月の商品の値上がりで、好転する兆しがみえず、客からも苦言が増えている。
▲	乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・自動車整備に必要な用品も値上げしており、単価が上昇しない。

	▲	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	販売量の動き	・1月の当ショッピングセンターは比較的順調に推移していたが、その頃と比較すると現在はやや厳しい状況である。3月は気温上昇の影響によるアパレルや雑貨などの物販店舗の好調があったが、現在は特にアパレルを中心に厳しい状況になっている。また、店舗によっては月末に一括報告となっており、月を締めて全体をみなければ結果が分からない部分もあるが、シネマが単体で前年比80%を切っており、全館へのマイナスの影響も大きい。
	▲	通信会社 (役員)	お客様の様子	・物価は確実に上昇しているが、地場企業の賃金は上がっていないため、営業活動を行っても当社のサービス導入に慎重になる傾向が顕著である。
	▲	設計事務所 (代表)	来客数の動き	・金利上昇に伴い、客は市場の動向を確認している。
	▲	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・坪単価が上昇し、資材や人件費の高騰もあり、売値が信じられないほど高騰している。しかし、問合せは順調に伸びている。実際に成約になるのはこれからであるが、金額によって購入できるか諦めるか両極に分かれてくる。
	×	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・4月は歓送迎会が若干あったが、まとまった人数の予約がなく、盛り上がり欠ける状況である。歓迎会の時期が終わってからは少人数の客はあるものの大人数の客はなく、売上が良くない月となっている。
企業 動向 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	農林水産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・3月の売上や利益は良かったが、4月に入っても好調である。売上も計画を上回りそうで、利益も計画以上を予想している。不振であった外食や居酒屋部門でも新型コロナウイルス感染症発生前と同様の状況に戻っている。前月、今月は異動の時期もあり、それらも好影響を生んでいると考えられる。量販店分野では、引き合いが強く需要全てに対応できない状況である。
	○	一般機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量は徐々に良くなっているが、経費が増加しており、景気が向上しているような実感はないため、現状が続いていくと予想している。
	○	電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・引き続き、主要取引先からの受注が好調を維持している。
	○	電気機械器具製造業 (取締役)	取引先の様子	・中堅企業向けの大型成長投資補助金の申請を行う予定である。前年より人材募集が困難となり、加えて工場スペースが手狭となってきたことから、工場の増設を計画しており、そのタイミングで申請することになっている。補助金採択の有無にかかわらず計画は進める方針である。
	○	建設業 (社員)	受注量や販売量の動き	・3月に受注した4本の工事がゴールデンウィーク明けから着工可能な状態になっており、景気は良くなっている。手持ち工事も完成しており、スムーズに移行できる状態である。
	○	輸送業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク前であるため物量が増加しており、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻っている。しかし、2024年問題や人手不足により値上げをしたことで大幅増加にはなっていない。
	○	金融業 (営業)	取引先の様子	・賃上げを実施した企業は中小企業も含め多くなっている。株高も背景にあると考えられるが、新NISAを始めとする投資への関心も高まっている。
	○	経営コンサルタント (社員)	受注量や販売量の動き	・外国人によるまとめ買いの影響で小袋入りラーメンが非常に売れており、品切れ状態である。
	○	その他サービス業 [物品リース] (職員)	受注量や販売量の動き	・新年度に入ったことも要因の1つであるが、設備投資が徐々に増加しつつある。
	□	窯業・土石製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・売上は前年と変わらないが、産地全体としては受注関係に活気がない。原材料などの状況を確認しても、同様に受注に動きがない状態である。

	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は以前と変わらず相見積形態の事業体質のため、コストを上げようと単価を上げて受注には至らない。景気が良くならなければ製品単価を上げられないジレンマが生じている。
	□	その他製造業 〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・今期に入ってから余り生産の状況が芳しくないため、先行きは良くない。
	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・輸入商品は引き続き低調である。食品、木材、機械類を始め回復の兆しがない。一方、輸出ではビールやタイヤなど回復傾向であるが、国内に目を向けると拠点間転送は増加しており、2024年問題を踏まえメーカーの拠点が増えているため、今後に期待したい。
	□	金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅や家電に加え、自動車の販売がやや弱含みである。物価上昇の影響はあるが、百貨店やスーパーマーケットの売上は比較的堅調となっている。また、旅館やホテル等の旅行、観光関連業種や飲食店などの売上は増加している。
	□	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業まで貸上げの機運が高まっているが、現実には実施できない状況である。加えて、コロナ禍による借入の返済もできず、資金繰りは良い状況ではないと考えられる。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・経常運転資金の貸出金の前年比増減率は四半期前と比較して大きく変わらない。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・繁華街や公共交通機関でインバウンドを目にする機会が増えており、地方においてもインバウンドの動きが活発になっている。それに伴い、大型バスやトラックの運転手不足が続いている。
	□	広告代理店（従業員）	取引先の様子	・急激な円安により物価が上がっており、また、大企業中心の貸上げは進んでいる。一方、中小企業の貸金については据え置かれたままで、実質貸金の低下となっている。周りの中小企業でも貸上げは少なく、景気は良くなってはいない。
	□	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・外的要因によって受注量が大きく上向くような状況とはいえない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業況をヒアリングすると、大きな変化がない事業所が多い。
	□	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・同業者からの情報では、新しい動きはない。
	▲	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・暑さが影響し既製品が売れないため、工場が十分に稼働するほどの受注がなく、景気が若干下降気味である。
	▲	不動産業（経営者）	競争相手の様子	・同業他社の状況を聞くと、破産等をした企業もあり、最近の景気は余り良くない。
	▲	新聞社〔広告〕 （担当者）	受注量や販売量の動き	・健康食品の問題の影響で通販広告の申込みが減少している。その他の業種の動きも鈍化しており、売上が若干落ちている。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕 （代表取締役）	取引先の様子	・市町村からまちづくりや福祉のコンサルタント業務の委託を請けているが、今年度は子育て支援関係の調査や計画策定の発注が行われる予定となっている。発注自体は前年度から行われた自治体も多く、今年度の発注は少ない状況にあるため、受注した件数は少ない。
	×	*	*	*
	◎	—	—	—
雇用 関連 (九州)	○	人材派遣会社 （社員）	周辺企業の様子	・求人数が約2割増加している。派遣の依頼だけでなく、正社員の紹介も増加傾向にあり、欠員だけでなく増員のための注文も増加している。

○	学校 [大学] (就職支援業務)	求人数の動き	・2025年3月卒業予定の大卒求人倍率は1.75倍となり、2024年卒業の1.71倍より0.04ポイント上昇している。全体の求人倍率は、コロナ禍直前の2019年卒、2020年卒でそれぞれ1.88倍、1.83倍となっていた時期の水準に近づきつつあり、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻る結果となった。就職活動の早期化が2023年度よりも進行しているため、2024年4月1日時点の内定率は58.1%と前年比9.7ポイント上昇している。
□	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・物価高騰などもあり派遣スタッフへの料金改定には理解があるため、改定に応じた企業数は例年より増えている。しかし、改定額にはかなりの開きがある。
□	新聞社 [求人広告] (社員)	それ以外	・勤務先の最寄り駅は好景気かと勘違いしそうな人の往来であるが、実際に景気が上向いていると感じることは全くない。
□	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・インバウンドの好調は維持しているため、その恩恵を受けている業界や業態については景気の良さが続いている。一方、円安や物価高があり、地元生活者の消費活動については景気は横ばいである。
□	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・賃上げをする事業所が増加してきたが、業種によって賃金上昇に対応できない事業所も増えてきており、求人数が前年比で連続して減少している。
□	民間職業紹介機関 (職員)	求人数の動き	・九州では理系を中心に人材不足が顕著で、企業の採用意欲も強く、求人も多い状況が続いている。世の中の景気が余り良くないため、人材業界でのトレンドに変化が出ていると考えており、文系も含め求人数は多い状態が継続している。
□	学校 [専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・業界を問わず、人材不足の企業と、若手人材の層を厚くしたい企業の求人数は増えている状況である。しかし、採用人数を達成している企業はさほど多くない。
▲	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・4月は年度初めであるため、案件の動きが鈍く新規発注が少ない。
▲	求人情報誌制作会社 (編集者)	求人数の動き	・潜在的な求人需要はあるものの、経費を投入して積極的に求人募集をしていない企業は多く、景気に対する先行きに不安があると考えられる。飲食店専門の求人サイトも取り扱っているが、例年需要が高まる時期であるにもかかわらず、大きな動きは見受けられない。
▲	新聞社 [求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・市内のホテルを利用した定例のイベントなどが減っている。ホテルの入口に記載している行事名も少なくなっており、また、レストランなどの料金も値上げしている。ホテルはイベントよりインバウンド需要を見込んでいるが、国内の景気は経費や無駄を抑える状況となっており、冷え込んでいる状態である。
×	—	—	—